

支部だより

2022/8/26 No.34 東京支部事務局

引き続きコロナ禍の中での支部活動報告

低水準だった新型コロナ感染者数が、7月12日ごろから激増してきた。7月12日以前の行事は予定通り実施できたが、8月の定例研究会はリモートでの実施となった。

実施行事

1. 定例研究会(例会)

●5月29日(日) 本年第2回の例会を京橋区民館にて実施した。講師は山口高志氏、参加者25名。一人作品5点を事務局に提出してもらい、適切にサイズダウンして先生に送付し、事前に作品の確認をしていただいた。

講評はプロジェクターを使用した。11時過ぎから開始し、17時前に終了。優秀作品11点の発表があった。

●8月6日(土) 本年第3回の例会をリモートで実施した。講師は山口高志氏、参加者は24名。これまでリモートに参加できなかった2名の方も頑張っておまほで参加できた。

また、作品は出したが、都合で参加できなかった方には録音で対応した。

これまで、提出作品は1人5点であったが、今回は同じ撮影対象でどれが良いか迷う場合は5点目の作品として、⑤-1(撮影者が良いと思った作品)、⑤-2、⑤-3と最大3点まで提出 OK とした。5人が、5点目に複数の作品を出した。他はこれまでと同様で、最後に優秀作品は9点が発表された。

2. 特別研究会

7月9日(土)本年第1回の特別研究会を、13時から17時頃まで、ケンコー・トキナー4Fにて実施した。参加者21名、講師はJNP 指導会員の萩原史郎氏。大変好評であった。概要後述

3 初夏の撮影会 6月12日(日)~6月14日(火)

志賀高原にて実施 概要後述

4. 「四季のいろ展」(全員参加の写真集選抜展)

6月3日(金)~6月14日(木)富士フィルムフォトサロン東京、東京支部当番6月4日、6月5日 概要後述

5. 日本風景写真協会創立20周年関東地区セミナー

6月4日(土)機械振興会館

講師 萩原史郎氏 概要後述

特別研究会概要 講師萩原史郎氏

前半約2時間は支部会員作品1人2点の講評、後半は「志賀高原作品から見る萩原流上達の秘訣」という題で約1時間40分の講演をしていただいた。

1. 講評

●画像を詳細に検討され、全体の構図から、角、辺の近辺の細部に至るまでの確かな指摘をしていただいた。

●指摘が具体的で分かりやすかった。特に、PhotoshopのCamera raw を使って画を展開されていて、切り抜き(不要部分、縦横比、縦横など)や、明るさの変更、傾きなど具体的な画面操作で指摘され、理解しやすかった。

●課題の多い作品についても丁寧に、こうしたら良くなると上記ソフトで丁寧説明していただき、今後の撮影技術の上達に生かせると思われた。など、など

支部会員からの的確で大変分かりやすいと好評であった。

2. 講演 「志賀高原作品から見る萩原流上達の秘訣」

20数点の場면을例示されながら、撮影についての考え方、コツを説明された。

印象に残った言葉

★ドラマは気が付かないうちに起きている。一瞬も気が抜けない

★露出は+-に大きく振ってみると、思わぬ効果に出会える

★いつも見ている姿にとらわれず、別の見かたを試みる

★美しいだけが美しいのではない

★場合によっては、絵などのイメージを持って景色を見ることも大事

★場面に応じ、柔軟な発想で物を見る

★彩度を下げ、コントラストを上げる撮り方もおもしろい(クラシッククローム的)

★気象現象を脇役にする

★足元に目を向ける

★想定することも大事だが想定外にも対応することが大事

★超広角で、思わぬ効果が発見できる。森の中では超広角

★発見を表現に変えるなどなど大変有益であった。

新入会会員紹介

8月より、小林征男さんが東京支部に入会されました。埼玉県和光市在住です。埼玉県展に複数回入選されているそうです。若いころは人工衛星打ち上げのサポートシステムの開発に携わったこともあるそうです。今後のご活躍を期待しています。

(文責 井上 武夫)

JNP 東京支部 初夏の撮影会

JNP 東京支部の2022 初夏の撮影会を6月12日(日)～14日(火)の日程で、志賀高原を中心に開催しました。宿泊は志賀高原の石の湯ロッジ。

ガイドに志賀高原をメインに活動されている萩原れいこ先生。実はこのパターンは2020年1～2月の冬の撮影会、2021年10月の秋の撮影会に続く企画で、この3回で志賀高原の1年をほぼ網羅することになりました。移動には宿のマイクロバスをチャーターし、コロナ感染対策上、定員12名程度で座席をゆったりと取りました。最終的に13名参加となりました。

(参加者 伊藤洋、井上、小川、佐藤直、須加尾、陶山、戸張夫妻、西川、野間夫妻、渡邊、菅澤 敬称略)

れいこ先生のスケジュールリングとガイドも素晴らしかったのですが、参加者の行いが良いせいか、梅雨時にも関わらず終始好天に恵まれて、想定を超えるグッドコンディションでの撮影会となりました。きっと数多くの傑作が撮影出来たのではないのでしょうか。

事故も無く、成功裡に撮影会を終了することが出来、参加者関係者の皆様に感謝いたします。

(文責 菅澤光裕)



初夏の撮影会に参加して

6月12日から14日、東京支部「初夏の撮影会」に参加しました。今回も石の湯ロッジさんにお世話になり、萩原れいこ先生のガイドと、撮影ポイントでのご指導をいただきました。

初日、正午に現地集合、皆無事に到着。午後から撮影開始。一沼、わたすげ平、琵琶池、のぞきと近場を周る。新緑に囲まれた一沼、琵琶池では、爽やかな風を感じながら。わたすげ平では、時折、霧に包まれるワタスゲを。夕刻、のぞきでは、ダイナミックな雲の流れ、沈みゆく太陽、陰りゆく山並みを撮影。

2日目、午前3時出発し草津側へ遠征。途中の展望台で強風の中、草津の街の明かりを眺め、夜明けを待ち日の出の撮影。明るくなるに連れ、周囲の風景が変化していく。遠方に富士の山頂が見える。今日は終日撮影のため、ロッジで用意したお弁当を、草津の道の駅でいただく。朝食後、熊野神社へ向かう。山間の集落の一面にある静かな社。境内の「鳴尾の熊野神社大杉」に圧倒される。

その後孺恋の俊哉の丘へ。浅間山に向かって連なるキャベツ畑。美瑛を思わせるような景観、ここは、れいこ先生にとっても思い出の詰まった大切な場所。

昼食は孺恋レストランで、牛丼かグリーンカレー(どちらか一つを前日予約)。グリーンカレーにはキャベツが添えてありました。

施設内に萩原俊哉先生の作品展示があり、拝見させて頂く。午後はバラキ湖周囲でレンゲツツジの撮影。「四阿山(あずまやさん)」の麓にある高原の湖であるが、この時間になると、暑く感じる。この後、志賀高原へ戻る。途中、皆冷たい飲み物を求めてコンビニへ。

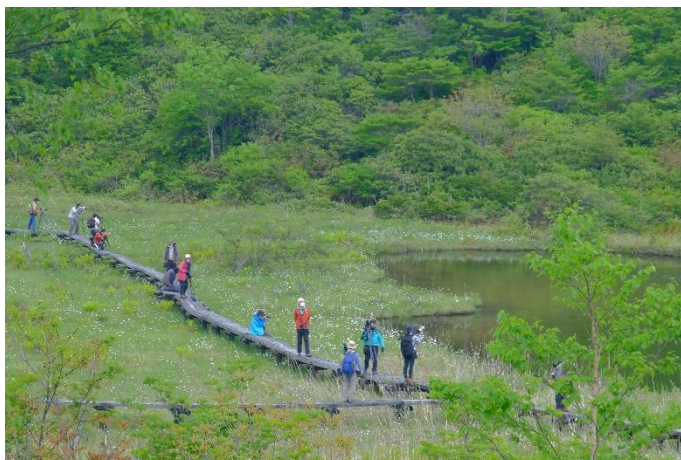
最後の撮影地は、武具脱の池(ものぬぐのいけ)。ワタスゲが咲き、湿地帯で木道がある小さな池。

3日目、午前2時半出発、カヤノ平へ。前回、秋の撮影会でも訪れた場所。夜明け前からの光の変化を捉えようと試みる。その後、近くのブナ林で、原始の森を感じながら撮影。ロッジへ戻り、朝食。ここで、荷物整理チェックアウトを済ませる。

朝食後最後の撮影で、三角池(みすまいけ)、蓮池へ向かう。異なる趣きを見せる2つの池である。全ての撮影を終了し、ロッジへ帰り12時頃解散。

3日間、天候にも恵まれ、高原の風景を満喫しました。東京支部の皆さんと撮影旅行が出来て、楽しい思い出となりました。また、れいこ先生、石の湯ロッジのスタッフの方々にもお世話になりました。撮影会を企画して頂きました、井上支部長、幹事の菅澤様、ありがとうございました。

(文責 佐藤直芳)



JNP 創立20周年記念選抜展

「四季のいろ展」を終えて

去る6月3日～9日富士フィルムフォトサロン東京にて「四季のいろ展」が開催されました。

ちょうどコロナの感染も下火になっていたときで大勢の方にご来場いただきたいへん好評でした。東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬支部が分担して受付を担当しました。

6月4日には会場近くの機械振興会館にて指導会員の萩原史郎さんによるセミナーが開催されました。宮城支部をはじめ関東一円から約70名が参加しました。

セミナー前半では関東地区の入選作品15点について出席者と会話しながらの丁寧な講評がありました。作者の半数の方は地元作品で入選されていて、撮影地には何回も足を運んで、シャッターチャンスをつかんでいらっしやることがわかりました。

満開の桜に雪が降ったら即駆けつけるとか・・・木の芽の

伸びを毎日のように見に行き、最良の日に撮影するか・・・聞いていて地元の方にはかなわないなどの思いをいだかされました。

東京支部の写真展では20周年を記念して地元東京の写真も展示します。どんな作品が見られるか楽しみにしております。

当たり前なのですが、好きな撮影地には何回も通うのが鉄則だそうです。

一方で一期一会のまたとないシャッターチャンスを生かされた方もいらっしやいました。

後半は本部主催の秋の大撮影会の志賀高原の見どころなど、作品を投影しながら説明してくださいました。

コロナ感染急増もあり残念ながら大撮影会は中止になってしまいましたが今後役に立つお話を聞くことができました。

(文責 戸張伸子)

JNP東京支部20周年記念イベント準備状況

東京支部だよりNo.32でご案内しましたが、現在、東京支部発足20周年記念を祝うため役員を中心に以下一連のイベントを企画・準備中です。

●20周年記念作品展

富士フォトギャラリー 銀座にて開催

(2022年11月4日～10日開催)

大全紙による日本の風景 + 東京の風景の全53点展示

●東京支部20年のあゆみ

「東京支部発足から20年のあゆみ」の編纂

●20周年記念写真集

「20周年記念図録」の発行

●東京の風景を対象とした撮影会

20周年記念作品展に向け東京周辺での撮影会開催

●20周年を祝う会開催

「会員自ら20周年を祝う」

「20周年記念作品展」については、井上さん、藤野さん、野間(芳)さんが中心に担当し、山口先生による第1次の選定(日本の風景:26名35点、東京の風景:18名18点・・・全53点)が終了し8月15日に最終チェックが行われ出展作品が確定されました。

「東京支部20年のあゆみ」については、紀田さん、井

上さんの協力のもと鈴木(暎)さんのお陰では15年記念以降の資料を収集し、完成しつつあります。

また、「作品図録」については、私戸張が印刷会社との連携により図録デザインのイメージが策定されました。図録には、作品展出展の全作品、また、今までお世話になった写真家の先生方にも掲載をお願いし、快くお引き受けいただきました。

「東京の風景を対象とした撮影会」は、菅澤さんの企画のもと昨年6月(薬師池公園)、今年4月(昭和記念公園)に開催され、作品展への応募作品としている方もいらっしゃいます。

「20周年を祝う会」については、紀田さんが担当され、現在構想中ですが、コロナ感染拡大の影響もあり、開催をどうするか？また、開催するとすれば、どの様な形で行うか？を検討中です。

東京支部の様な写真の会は・・・作品技術のレベルアップをしながら、メンバー間の交流を深め、人生を楽しむ、豊かにするものであると思います。

一連のイベントを通し、20周年を皆で、祝うと共に、次の5年、10年に向けさらに継続していきたいと思います。

(文責 戸張 眞)

新たな仲間紹介

10年前初めてデジタル一眼レフを持ち、カルチャー教室を経て、地元の写真クラブに在籍して5年余り……。いつ頃だったか JNP 会員が撮られた「俳句の風景」という素晴らしい写真集に出会い、2年前山本元会長の二十四節気の個展でお話を伺い繊細な季節感と写真に対する熱意に感動し、JNP の存在を意識するようになりました。可能であれば入会したいと思っていましたが、今回 縁あって東京支部へ入会させていただくことができました。

既に例会も2度参加しましたが、皆さんの個性的な素晴らしい写真に驚き若干気後れしながらも、いつか自分なりの個性が表現できるようになればと思っています。山口先生の丁寧で的確な講評にも感服しています。また、研究会なども充実していると思います。

さて話は飛びますがスマホで簡単に風景写真が撮れる現在どうして私たちは苦勞して「風景写真」を撮るの

でしょうか？ ふとそんなことを思う時があります。「風景写真」は素材、場所、天候、技術に加えて情感や表現力などが要求されますがとりわけ情感が大切だと私は思っています。詩人萩原朔太郎は絵画的(写真的?)と評される蕪村を再評価し「郷愁の詩人」と呼びました。俳句と写真では表現方法は違いますが本質は同じような気がします。年のせいか何か郷愁というワードに心を惹かれます。そんな想いを感じさせる写真を撮ってみたい・・・と今思っています。

先輩の皆さん、いろんな行事に参加させていただきたいと思っています。ご指導のほどよろしく願いいたします。

(文責 伊藤洋)

写友広場

2022年6月から8月の間には以下の方が入選入賞されました

- 風景写真 9, 10月号 高橋清
ヒガンバナ20選に2点 千葉県祖光院
大山千枚田
錦秋30選に1点 長野県大河原峠
- 風景写真 9, 10月号 テーマ部門 紅葉
準優秀作品賞「再生」 藤野治雄
- 月刊フォトコン 7月号 ネイチャーフォト
中上級の部 入選 峠の春 高橋清
- 第214回ペンタックスリコーファミリーフォトコンテスト 秀作賞 梅雨焼 高橋清
- ペンタックスリコー写真年鑑 入選「砂紋」
高橋清

(文責 戸張伸子)

事務局より

11月の東京支部20周年記念作品展が近づいてきました。作品の選定、写真集(図録)の準備も進んでおります。できれば新型コロナも少し下火になって、安心して開催できることを願っております。

今後の予定

- 東京支部秋の撮影会

9月30日(金)～10月2日(日) 梶池自然園

●東京支部第2回特別研究会

10月8日(土)

ケンコー・トキナー4B

講師:前川彰一氏

●次期支部長選挙 10月中旬予定

●東京支部20周年記念作品展

「秀麗彩美」～出会の瞬間～

11月4日(金)～11月10日(木)

富士フォトギャラリー銀座 SPACE-1～3

●高橋清氏個展

12月2日(金)～12月8日(木)

富士フィルムフォトサロン東京 SPACE-1

●東京支部第4回定例研究会

12月3日(土)

ケンコー・トキナー4B

講師:山口高志氏

(文責 井上武夫)

編集後記

朝晩秋の気配を感じるようになりましたが、まだまだ暑い日が続きます。

猛暑とコロナ感染者急増の夏、皆様いかがお過ごしでしたか？

さて花風景が好きな方は多いと思いますが、私もその1人です。

夏の高原の花の群生はたいへん美しいですね！

レンゲツツジ、ニッコウキスゲ、ヤナギラン、シシウド、コバイケイソウ、マツムシソウ etc

毎年訪れていますが、今年の鉢伏山と美ヶ原のレンゲツツジはたいへん綺麗で花つきがよく数年に一度の当たり年でした。

昨年は花が少なかったのですが、ちょうど花芽のつく頃に雪が降りとても寒かったのが原因と鉢伏山の山小屋のおじさんが言っていました。

写真を撮始めたころ、7月の車山肩は一面のニッコウキスゲの花で黄色の絨毯のような美しさでした。

でも、現在はシカが増えて花芽をたべてしまうので、保護された地区でしか見られなくなってしまいました。

昔の美しさを知っているのでとても残念に思います。

道路を通過していてもシカの親子を見かけることが多くなり、増えていることを実感します。

以前からワタスゲの実物を見たかったのですが、今年志賀高原の撮影会で初めて見ることができました！

大群落とはいきませんでした、フワフワした綿毛がなんとも可愛らしい。花言葉は「揺れる思い」

2回行きましたが霧の中のワタスゲを見ることはできませんでした。

ご存じの方も多いと思いますが、ワタスゲの花は5-6月に咲き、地味で目立たないそうです。白い綿毛は花の咲き終わった後の花穂で6-7月頃に見られます。

綿毛は風に吹かれて種を遠くに飛ばすためのものなのです。タンポポのように風にとんでいく綿毛も見てみたいものです。

地球温暖化による豪雨や干ばつ、シカなどの生態系の変化・・・自然の花も様々な影響を受けていると思います。立ち入り禁止区域に入らない、ゴミの持ち帰りなどマナーを守って撮影を楽しむこと、節電を心がけること・・・私達のできることはほんのわずかなことでしかありませんが、いつまでも美しい自然の姿が続いてほしいと願わずにはいられません。風景写真をこれからも楽しむためにも、子供達や孫達のためにも。

(文責 戸張伸子)